

VI 令和3年度 九州地区研究大会報告

令和3年度九州地区盲学校教育研究会・長崎大会

1 大会概要

- (1) 期日 令和3年11月26日(金) 13:20~16:05
- (2) 主管校 長崎県立盲学校
- (3) 開催方法 Microsoft teams を利用したオンライン開催

2 内容

(1) 第1分科会(学習指導1)

テーマ: 表現力を高める外国語の指導・支援のあり方

協議題: 「少人数学級における外国語のコミュニケーション能力を育成するための指導について」

「外国語の指導を効果的に行うための小学部から高等部までの連携について」

研究発表: 「やり取りを通して表現力を高める指導」

(鹿児島県立鹿児島盲学校)

(2) 第2分科会(学習指導2)

テーマ: 視覚障害のある児童生徒に対するプログラミング教育の指導の在り方について

協議題: 「視覚障がいのある幼児児童生徒への情報教育(プログラミング教育)の指導について」

「視覚障がいのある幼児児童生徒の支援機器としてのICT機器の活用について」

研究発表: 「視覚障害者におけるプログラミングを用いた授業の在り方について」

(福岡県立福岡高等視覚特別支援学校)

(3) 第3分科会(生活)

テーマ: 寄宿舎における主体性を育むための指導について

協議題: 「寄宿舎ならではの自主性・主体性を育むための取組について」

「寄宿舎における実態に応じた指導・手立て等の工夫について」

研究発表: 「栽培活動を中心とした主体的な取り組みについて」

(福岡県立北九州視覚特別支援学校)

(4) 第4分科会(特別支援)

テーマ: 視覚障がいのある幼児の教育課程改善に向けた取組について

協議題: 「幼稚部における教育課程改善のためのPDCAサイクル等の運用について」

「教育相談と幼稚部、幼稚部と小学部の『つなぎ』や『連携』について」

研究発表: 「視覚障がい幼児の豊かな発達を促す教育課程」

(宮崎県立明星視覚支援学校)

(5) 第5分科会(理療)

テーマ: 診察能力を育むための指導について

協議題: 「学びの定着を図るための指導の工夫について」

「指導効果の充実を目指した科目どうしの連携について」

研究発表: 「診察能力の定着を目指した指導の研究」

(沖縄県立沖縄盲学校)

3 報告

本大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインでの開催となった。対面での開催でなくとも、各分科会における研究発表をリアルタイムで聞くことができ、質疑応答もできた。実地開催の場合は本校からの参加人数が限られていたが、今回は各分科会に複数の職員が参加することができた。特に、第1及び第2分科会では小・中・高学部より1名ずつ参加できた。各分科会での協議では、校内での取組を共有し各校の取組について情報交換でき、充実した研究大会となった。

第26回 九州地区聴覚障害教育研究大会（宮崎大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「新たな時代を生き抜く子どもを育む魅力ある聾学校を目指して」
～変化する社会情勢の中で聾学校が果たすべき役割～
- (2) 期 日 令和3年11月11日（木）から12日（金）まで
- (3) 会 場 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校
宮崎県立延岡しろやま支援学校

2 内 容

【1日目】

(1) 研究協議会

グループ	研究主題
幼稚園部	「ことばを広げる体験活動～栽培活動を通して～」
小学部	「児童の発達応じた主体的・協働的な学びに導く手立ての在り方と実践～豊かに生きるための「学ぶ力」を育む～」
中・高等部	「“ものづくり”を通して、共に生きる力を育てるキャリア学習」

(2) 分科会

分科会名		テーマ
1	早期教育・幼稚園教育	乳幼児のコミュニケーション力を育むための指導の工夫と保護者支援について考える。
2	学力と教科教育① 小学部2群※	主体的に学習に取り組み、思いや考えを他者と伝え合い、深め合う力を育むための指導の工夫について考える。
3	学力と教科教育② 中・高等部1群※	主体的に学習に取り組み、問題を解決する力や学んだことを生活や学習に活用する力を育むための指導の工夫について考える。
4	自立活動「聴覚学習－聴覚支援学校における聴覚活用の在り方－」	医療、補聴技術の進歩や幼児児童生徒の実態やニーズの多様性に対応した、聴覚支援学校における聴覚活用の在り方について考える。
5	基本問題「寄宿舎」	集団生活を通して豊かな人間性を育てるとともに、社会的自立へ向けて多様化する社会に対応するために必要な力を育む寄宿舎教育の在り方について考える。

※1群・・・算数・数学、理科、技術、家庭、道徳

※2群・・・国語、社会、英語、芸術（音・美・書）、保健体育

【2日目】

(1) 情報交換会

- ① 乳幼児教育相談 ② 社会 ③ 重複障がい学級 ④ 地域支援 ⑤ 外国語

(2) 記念講演 「ろう重複障害教育から考える今後の聾学校の役割」

群馬大学共同教育学部 木村 素子 准教授

3 報 告

九州の聴覚支援学校各校をオンラインで結んでの開催となった。どの各研究協議会、分科会、情報交換会も、事前からアンケート等でそれぞれの会のテーマに沿って意見交換がなされていたため、当日のオンラインでの研究大会では活発な協議や意見、情報の交換が行われた。

第45回九州地区難聴・言語障害研究大会（宮崎大会）

1 大会概要

(1) 大会主題

「これからの難聴・言語障がい教育の在り方を考える」
 ～ 子どもや保護者のニーズに応える支援や連携をめざして ～

(2) 期日 令和3年度7月29日（木）、30日（金） ※ 中止

(3) 方法 誌上発表

2 内容

分科会	テーマ	発表県	発表のテーマ
第1分科会 (構音)	構音に誤りのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	福岡県	「ことばの健康診断」の取組と指導の実際
第2分科会 (吃音)	吃音のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	大分県	治すことよりも大切なこと
		熊本県	子どもが楽しく前向きに取り組む吃音指導 ～2人の年長児の事例を通して～
第3分科会 (言語発達)	言語発達に課題のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	宮崎県	自分の思いをことばで表現できる児童を目指して～語彙を増やし、ことばの力を伸ばすために～
		沖縄県	言語発達に遅れのある子どもの指導 ～ことばの土壌を耕す領域、言語理解力・表現力を促す領域の指導を通して～
第4分科会 (聴覚)	聴覚に障がいのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	鹿児島県	中学校進学に向けた自立活動や外国語の指導の工夫～難聴通級指導教室における実践を通して～
第5分科会 (連携)	子どものために、どう連携し支援していくか。	長崎県	子どものためにどう連携し支援していくか～担当者としての4年間の歩みを振り返って～
		佐賀県	通級児や保護者に安心感を生み出すための連携について～つなぐ・つながる・つながり続ける支援を目指して～

3 報告

今年度の研究大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、誌上発表となった。実行委員会各部で準備をしてきただけに残念であったが、各県の実践発表を要項にまとめ、発送することができた。各県の実践をまとめたことで、より多くの会員がそれぞれの実践に役立てることができるのではないかとと思われる。

今後は、新型コロナウイルス感染防止をもとに、本大会の実施の在り方を提案できるとよい。

第55回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「熊本大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「10年後を見据えた特別支援教育の推進」
～新しい時代に求められる教育とは～
- (2) 期 日 令和3年8月5日(木)～8月6日(金)
- (3) 場所(会場) 熊本大学教育学部附属特別支援学校(オンライン発信会場)

2 内 容

- (1) 第1日目
① 開会行事 ② 分科会1 ③ 分科会2・3 ④ 分科会4・5
- (2) 第2日目
① 分科会5・7
② 記念講演 演題 『新しい時代を見据えた特別支援教育の在り方』
講師 ニューヨーク州認定スクールサイコロジスト バーズン亀山静子 氏
③ 閉会

【分科会(全7分科会)】

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	日常生活の指導	生きる力を育む日常生活の指導	鹿児島県・沖縄県・熊本県
2	生活単元学習	確かな学びに向けた単元の設定や 地域や学校の特性に合わせた実践	沖縄県・福岡県・熊本県
3	教科別の指導	主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた 教科別の指導の工夫	福岡県・佐賀県・熊本県
4	作業学習 進路指導	主体的に取り組む学習の展開や 卒業後の進路保障の在り方について	佐賀県・長崎県・熊本県
5	自立活動	主体的に困難の改善・克服に取り組む自立活動	長崎県・大分県・熊本県
6	交流及び共同学習	共に学び、豊かに育ち合う交流及び共同学習	大分県・宮崎県・熊本県
7	合理的配慮の実際	一人一人の可能性を最大限に伸ばす 環境づくりのための合理的配慮の実際	宮崎県・鹿児島県・熊本県

3 報 告

今回の研究大会は、新型コロナウイルス感染防止を考慮しオンラインにて開催された。オンラインで開催されたためどこからでも参加可能になり、移動時間にかかる時間的コスト、また移動に伴う交通費や宿泊費など金銭的コストなどによって本来は会場に行くことのできない人でも、本大会に参加することができた。分科会により、九州各県の素晴らしい実践を通して、子どもたちの教育的ニーズに応じた指導や支援の在り方について協議を深めることで、特別支援教育に携わる私たちの専門性を向上させる機会になった。さらに、記念講演により、教育環境の変化や今後の子どもたちに求められる力など様々な背景を踏まえ、今後、特別支援教育において求められるものや留意すべき事項なども学ぶこともできた。

来年度は、沖縄県で開催予定である。

第58回九州地区肢体不自由教育研究大会宮崎大会

(令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合肢体不自由教育研究部会第23回肢体不自由教育研究大会)

1 大会概要

- (1) 大会主題
「学習指導要領を踏まえた肢体不自由教育の充実を目指して」
- (2) 開催期間
令和3年10月14日(木)から令和3年10月28日(木)まで
- (3) 開催形式<Webでの開催>
第58回九州地区肢体不自由教育研究大会特設ホームページ

2 内容

- (1) PTA 連合会 PTA 会長会 校長会 全体会 大会会長挨拶 (オンライン会議による実施)
 - ・ 文部科学省講話 (オンライン会議による実施)
講師：菅野 和彦 氏
演題：「肢体不自由教育の現状と今後への期待」
～学習指導要領の着実な実施に向けて～
 - ・ 記念講演 (オンデマンド配信)
講師：真北聖子 氏 (シンガーソングライター・ラジオパーソナリティー)
演題：「限りある人生を 限りなく 楽しむために」
- (2) 第1分科会～第7分科会 (オンライン会議による実施)

分科会	内容
第1分科会	教育課程・授業改善
第2分科会	学習指導 (準ずる教育課程・下学年/知的代替の教育課程)
第3分科会	自立活動
第4分科会	情報教育・支援機器の活用
第5分科会	センター的機能・健康教育
第6分科会	PTA・地域との連携
第7分科会	生活指導・寄宿舎教育

- (3) ポスター発表 (同期間に動画配信・PDFで掲載)
- (4) PTA 座談会 (オンライン会議による実施)

3 報告

本年度の九州地区肢体不自由教育研究大会は、本県に事務局が置かれ、第23回宮崎県肢体不自由教育研究大会と兼ねて行うこととなった。コロナ渦への対応として、2週間にわたりオンラインで開催された。

役員会では、PTA 連合会、PTA 会長会、校長会、全体会が行われ、研究会の課題や今後の方向性等が話し合われた。

文部科学省調査官の講話では、菅野和彦氏に来県していただき、「肢体不自由教育の現状と今後への期待～学習指導要領の着実な実施に向けて～」という演題で講演していただいた。

記念講演では、シンガーソングライターであり、ラジオパーソナリティーとしても活躍されている真北聖子氏を迎え、「限りある人生を限りなく楽しむために」という演題で講演していただいた。高校時代に発病して以来、悩みながらも逞しく生きてこられた過程をユーモアあふれる語り口で、御講話いただいた。

分科会では、7分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に提案者からの発表があり、質疑応答、協議の柱を中心とした協議、助言指導と続いた。各分科会でそれぞれの学校の特色ある実践の発表があり、活発な議論が展開された。

第61回 九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 佐賀大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「病弱虚弱教育の今後の在り方を求めて ～新学習指導要領をふまえて～」
- (2) 期 日 令和3年8月18日(水)～19日(木)
- (3) 方 法 オンライン会議システム (Zoom)

2 内 容

- (1) 第1日目
 - ①分科会打合せ
 - ②校長会
 - ③理事会
- (2) 第2日目
 - ①開会行事・総会
 - ②講演Ⅰ(録画配信) 演題「学習指導要領を踏まえ、病弱教育を充実するために」
講師 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 調査官 深草瑞世氏
 - ③講演Ⅱ(Live 配信) 演題「行動障害を伴う知的・発達障害児の支援と連携のあり方」
講師 独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター 医師 會田千重氏
 - ④分科会

分科会名	提言テーマ	担当提言校
教科・領域の指導	場面緘黙傾向のある慢性疾患の生徒に対する指導・支援の工夫について	北九州市立小倉総合特別支援学校
	登校が安定しない生徒の評価を見据えた授業づくりの工夫	宮崎県立赤江まっばら支援学校
自立活動の指導	心身症の児童生徒に対する実態把握と支援・指導の実際	北九州市立門司総合特別支援学校
	安心して社会と関わる力および繋がる力の育成を目指して	沖縄県立森川特別支援学校
発表校による設定	病弱特別支援学校におけるキャリア教育の充実について	長崎県立桜が丘特別支援学校
	3年間を通じた進路決定に向けた取り組み	大分県立別府支援学校石垣原校

3 報 告

感染防止の観点から、オンラインでの開催となった。参加校に2回線の割り当てがあり、宮崎からの参加者も2会場に分かれ、十数名が参加した。

講演の一つ目は、あらかじめスライドに音声録音されたものが配信された。病弱教育の課題や、子どもたちの心に寄り添った指導と支援について考えさせられる内容であった。

講演の二つ目は、児童精神科医の話がライブ配信で行われた。強度行動障害の支援として、保護者、医療機関、学校、その他の機関との連携、具体的な方法をしっかりと共有することの大切さなどの話があった。また、講師にその場で、各県からの質問に答えていただく時間も設定されていた。

分科会では、赤江まっばら支援学校が「教科・領域の指導」の提言担当校に割り当てられており、昨年度の校内研究の取り組みについて発表した。福岡県、長崎県より、参考になる取り組みであるので、評価項目など詳細を教えてほしいという質問が寄せられた。

オンラインでの開催であったため、協議などの時間の設定はなかったが、各県から、より多くの方が参加することができ、意義深い研究協議会であった。

第49回九州地区情緒障害教育研究会「福岡大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「すべての子どもの夢をはぐくむ特別支援教育の推進」
～ 一人一人の教育的ニーズに応じた支援・指導のあり方 ～
- (2) 期 日 令和3年8月6日（金）
- (3) 場所（会場） ZOOM ウェビナーによるオンラインにて開催

2 内 容

- (1) 開会式
- (2) 記念講演（休憩・質疑応答含む）
講師：立命館大学 教授 宮口 幸治 先生
演題 「困っている子どもの背景と支援」
～コグトレを使った具体的な支援～
- (3) 閉会式

※ 分科会（新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止、後日大会記録に掲載）

第1分科会「自閉スペクトラム症」

- 鹿児島県 鹿児島市伊敷台中学校 教諭 前 裕大
- 熊本県 熊本市立五福小学校 教諭 古田 翔太郎

第2分科会「LD・ADHD」

- 沖縄県 名護市立大北小学校 教諭 比嘉 ほずみ
- 福岡県 福岡市立東光中学校 教諭 古川 朋子

3 報 告

今年度の第49回九州地区情緒障害教育研究会「福岡大会」は、新型コロナ感染拡大対策のため、ZOOM ウェビナーによるオンライン開催となった。

記念講演は『「困っている子どもの背景と支援」～コグトレを使った具体的な支援～』と題して、立命館大学 宮口幸治教授によるすばらしい講演が行われた。著書である『ケーキの切れない非行少年たち』や『コグトレみる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング』等、実際の事例による分析や、コグトレの実践事例等の紹介をしていただいた。

また、分科会で発表を予定していた提案者の資料については、大会終了後に大会記録で紹介された。